



当院の感染管理の目的は、患者さん・患者さんのご家族・職員を感染から守ることです。そのため、当院ではICT（感染対策チーム）をつくり、その一員として院内感染防止を目的とした実践活動を展開しています。

感染管理認定看護師の活動は多岐にわたります。

主だった活動は、感染症の発生時にどのような対策をするかを決めたり、細菌検査室からの情報を元に薬剤耐性菌（抗生物質が効かない菌）が検出されている患者さんの情報を受けて院内をラウンドしたり、マニュアルの内容の周知のために研修会の講師をしたり、感染の集団発生時の拡大防止に向けての対応があります。

感染症の原因となるウイルスや細菌は、目に見えないので、一人ひとりの行動が現実なものとなっていかなければなりません。そして感染対策は職員だけができればよいものではなく、患者さんや施設内に入りますすべての人が対象となります。感染対策の基本である手洗いと咳エチケットはだれもができるよう、年間を通じ、実践できるプログラムを行っています。

3月には職員対象の手洗い研修を開催し、洗った手はきれいになるか、特殊なクリームを使ってもきれいになるかを、実践できるプログラムを行いました。約500人の職員が参加してくれました。一人ひとりの洗いや、洗った手はきれいになるかをアドバイスするのは、大変でしたが、手洗いは感染管理の第一歩ですから、手を洗うことはできません。定期的に開催していく予定です。今後は院内だけでなく、地域の病院と協力して地域全体の感染対策に取り組んでいきます。



特殊なクリームを使って、手洗いをした後、フックライトで確認をします。白く残っているところが、洗い残しています。



日本赤十字社

武蔵野赤十字病院

〒180-8610
東京都武蔵野市境南町1-26-1
TEL 0422-32-3111
季刊 情報誌
発行 企画課



「いとすき学園」は武蔵野赤十字病院に入院している小・中学生のための教室（院内学級）です。この作品は「いとすき学園」の子どもさんたちが集めた印（ケースにセロハンを貼）ピースや羽根、リボンで飾り作成しました。

世界赤十字デー・看護週間イベント

「あさしのふれあい赤十字デー 2012」

日時：
平成24年5月19日（土）
午前10時～午後3時

初夏を思わせるような暖気の中、例年通り職員・ボランティア手作りのイベントが開催され、患者さんやご家族の皆さま、近隣の皆さままで大勢の方が立ち寄られました。今年はJA武蔵野から直売所の出店もあり新鮮野菜と切り花が店頭に並びました。武蔵野消防署から起震車と怪体検ハウスの紹介があり、多くの皆さまが体験されていました。

内容：
コンサート、講演会、フリーマーケット、健康チェック、救急法パビリオン、アロマセラピー、起震車体験コーナー
JA武蔵野直売コーナー、スタンプラリー
赤十字PRコーナー 他



☆ バザー会場

☆ アロマセラピー



☆ 赤十字車仕団によるバザー

☆ パビリオンアート



☆ JA武蔵野

☆ 起震車による地震体験



☆ 救急隊員
星原氏の講演

☆ 職員による
和太鼓の演奏

☆ お子さんも参加

基本理念

- 病む人への愛
- 同僚と職場への愛
- 地域住民と地域への愛
- 地球、自然、命への愛

基本方針

- (1) 患者・家族から信頼される安全な医療を提供する
- (2) 地域中核病院としての機能向上を図る
- (3) 地域の医療機関・行政と連携して市民が安心して住める地域づくりを進める
- (4) 質の高い医療を提供するため、安定した病院経営を継続する
- (5) 働きがいがあり、成長を実感できる職場をつくる

がん診療委員会

腫瘍内科部長 中根 実

都心の専門病院や大病院にまで遠く通院することなく、地元の病院で一定の水準を保った「がんの標準的治療」を受けることができれば、患者さんやそのご家族はどれだけ楽になれるでしょうか... 10年ほど前に都心のがん専門病院で仕事をしていたころの筆者の思いでした。

平成18年に国によって「がん対策基本法」が施行され、がん治療を各地域で充実させる動きが始まりました。当院はいち早くこの流れに同期して、がん診療の充実を計る方向を打ち出していました。当時の三宅三院長がこの分野にかけろい思いは並々ならぬものがああり、まさに当院のがん診療の原点といえましょう。

こうした取り組みの中で、当院は「がん診療連携拠点病院」という大きな役割を担ってまいりました。がんに関するさまざまな部門が立ち上がってきましたので、これらの集約や業務の進捗などを話し合う場が必要となり、平成20年から「がん診療委員会」が設置されました。医師・看護師・薬剤師・事務といった多職種が集まって、がん診療連携バス・緩和ケア・がん登録・ピアカウンセリング・患者相談・がんに関する講習会の開催などについて毎月話し合いを行って、よりよい方向性を模索してまいりました。

これからはこうした各部門がさらに活動を高め、さらに組織的ながん診療の体制となっていく必要があると感じています。医療スタッフの「チームワーク」そして「患者さんへの思い」を大切に、地域の皆様のご期待に応えられるがん診療をめざしていきたいと考えておりますので、今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。



今年5月に行われました「鶴立腫がんのお話」講習会の様子

今後の患者さん・ご家族のためのがんに関する講習会

時間：午後2時～4時 場所：山崎記念講堂

開催日	曜	テーマ	講師
7月18日	水	がんの放射線治療のお話	放射線科部長 星 章彦
9月11日	火	悪性リンパ腫のお話	腫瘍内科部長 中根 実
11月9日	金	乳がんについてのお話	乳腺科部長 松田 実

問い合わせ先：がん相談支援センター 0422-32-3111 代表（内線 7558）

診療科のご紹介

小児科



小児科 医師スタッフ

副院長
部長 日下 隼人

病む子どもたちに適切な時に最適な医療を提供するのはもちろんのことですが、子どもたちが心身ともに健やかに育てるように、また養育者の方が安心して育児ができるような援助を私たちは心がけています。

そのために、お互いがわかりあい信頼し合えるコミュニケーションを大切にしています。私たちは、十分時間をかけて、養育者の方のお話しやご意向をうかがい、症状についてできるだけわかりやすい言葉でご説明します。

診療内容については、病状について納得していただいた上でのご同意に沿って、安全な医療を提供していきたいと思っています。おわかりになりにくいことやご希望がありましたら、なんなりとお話しくさるようお願い致します。



小児科外来を守るスタッフ



小児科病棟を守るスタッフ

入院による診療が必要な場合、小児のための病棟（オレンジ4階）にご入院いただけます。また当院には院内学級として「いとず学級」（公立小学校・中学校の特別支援学級）が併設されており、小・中学生は入院中も学習を継続することができます。

心療内科の臨床心理士とともに、心のケアが必要な子どもにも適切な診療を行っています。小児科医師の不足が叫ばれていますが、幸い当院では14名（新生児・未熟児担当4名を含みます）の小児科医がおり、それぞれ専門分野をもって診療にあたっています。

いつの時代も、子どもは未来です。その未来を豊かなものにしていくのは、少しだけ先に生まれたものへの責任と義務です。

病気の子どもたちの権利を守り、子供たちがいやな思いをすることができるだけ少ないように、最善の医療を提供したいと考えています。